姑かがいでな、息子さ嫁もらったんしけどよ。したば、嫁あ、なんだか嫁になって来た時より、顔色えぐねんしでおんな。それでしゃ、

「あね、あね。お前、どこが悪いがア。顔の色わりじゃ」

と言ったば、

「なんとしてあばア、俺あ屁でるども、おが屁こたえでだば、こんだおの」

ど、こう言うでおんの。

「屁ぐらいだば、まげだらえがべしゃ」

そう言ったば、

「んだら、俺あ屁まげるがら、あばア、炉ぶちさぶったりたもずがってけれや」

と、嫁さん、そう言うけでおんの。

「俺あ、炉ぶちさたもずがねたってえがべエ」

「んでね、んでね。たもずがってけれ」

って、嫁あしゃ、姑かがアど、たもずからせだど。

したばしゃ、嫁しゃ、屁まげだおの、まげだおの。なんと、ぶうーっと、さっとばかりの大っい屁でねもんだわげだア。そうしたば、姑かがア、炉ぶちたないだまま、ずうっととんでえって、空の上の方を、ぐるぐるまわってえだど。したばしゃ、その姑かがア、

「屁の口とめれじゃ、屁の口とめれじゃ」あねコ」

どて叫ぶたって、出るくりやまげだ、なんぼでもでるど。こんだ、屁の口とめだば、どだッと落ちできてあったど。ひでエ嫁だだって、家がらぼわれだど。

それがら、その嫁あ、歩いでるうぢに、柿の木あって、わらしたちいっぱいいで、柿もぎだもんだしけど。

「なんじょして、この柿もいだらえがべエ　竿とどがねし、どしてとったらえがべエ」

ど、竿たないで見であったど。

「俺あ、もえでけるがア」

ど、その嫁あ言ったど。

「もえでけれ、俺あ、柿食いてエたって、食えねエ」

したばしゃ、そごさ尻ふるげで、屁まげでやったどしゃ。そしたば、その柿あ、でらり落ちでしまったど。みんなして、大喜びして、その柿食ったど。

それがらその嫁あ、ナシもいだり、リンゴもいだりして、いっぺエぜんごもらったど。